

12 日間のスケジュール（一部抜粋）

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 11.3 与謝野町発 | 11.10 故フランク・エバンス氏のお墓参り、スレート |
| 11.4 アベリスツイス着、ホストファミリーと対面 | 鉱山見学、教育機関訪問 |
| 11.5 国立図書館訪問、教育機関訪問 | 11.11 広大な農地や庭園の見学、アベルアイロンの街 |
| 11.6 ウールミュージアム訪問、公式レセプション | 並み散策 |
| 11.7 アートセンター訪問、教育機関訪問 | 11.12 アベリスツイス大学訪問 |
| 11.8 ホストファミリーと交流（終日） | 11.13 アベリスツイス発 |
| 11.9 追悼記念式典に参加、ホストファミリーと交流 | 11.14 与謝野町着 |



アベリスツイス大学訪問の様子

Episode 1

歌とまちと、人のあたたかさに触れて

奥村 心美（おくむら ここみ／宮津天橋高等学校加悦谷学舎2年）

昨 年の秋、私はウェールズの海辺のまちアベリスツイスで行われた高校生派遣研修に参加しました。

午前中は地域訪問や学習活動など、さまざまな価値観に触れる充実した時間を過ごし、午後にはホストファミリーとの交流を深める大切なひとときがありました。「今日は何があった？」と聞きながら温かい紅茶を差し出してくれる姿に、言葉だけでは伝えられない優しさを感じました。ある夜、私は日本の曲を紹介し、ホストファミリーはウェールズの歌を教えてくださいました。国境も言語も関係なく、心がひとつになる瞬間でした。この経験を通して、思いやりは世界を近づける力だと実感しました。

アベリスツイスでいただいた温かさを胸に、与謝野町でも人と人とのつながりを大切にしていきたいです。



上ノレイラ（左）とチャーリーズ・スーパーマーケットにて
左ノノア（左）とペンウェディング校のパーティー会場にて

Episode 2

ウェールズでの2週間

尾関 将維（おぜき まさつぐ／京都共栄学園高等学校1年）



上ノイーサン（中央）と友人のオーシャン（左）と戦争記念碑をバックに
下ノイーサン（左）と友人のオーシャン（右）とアベリスツイスの海岸にて

昭和 59 年から今日まで、両町の方々によって受け継がれてきたこの交流に、これまでアベリスツイスを訪れた与謝野町の高校生 89 人の一人として参加できたことに心より感謝しています。

戦後 80 年が経過し、戦争を知る世代が少なくなる中で、この事業は、私たち若い世代が戦争について考える貴重な機会であると感じました。私は大江山と日本冶金工業を結び、ニッケルを運んでいた加悦鉄道について、以前に祖父から話を聞いたことがありました。しかし、大江山ニッケル鉱山で捕虜が強制労働を強いられていた事実については、これまで知りませんでした。

今回の事業に参加したことで、戦争への理解がより深まり、二度と戦争を起こしてはならないという思いを強くしました。これからも、この交流が大切に受け継がれていくことを願うとともに、長年にわたり支えてくださったすべての皆さまに感謝申し上げます。



故フランク・エバンス氏の墓前にて

— 友好協定締結地・ウェールズ アベリスツイスへ高校生を派遣 —

友好の架け橋になった高校生たち

令和 7 年 11 月 3 日から 14 日までの 12 日間、与謝野町の高中生 6 人が、友好協定を締結している英国ウェールズのアベリスツイスを訪れました。滞在中は追悼記念式典に参加し不戦への誓いを新たにしたりほか、本町と共通する織物産業施設、教育機関を訪問するなど、異文化に触れました。また、ホストファミリーとの交流を通じて、海外の生活に触れながら、改めて自分たちが住む与謝野町や日本について考える貴重な機会となりました。

今回の派遣で、高校生たちがどのような経験をし、何を感じ、学んだのか——。高校生たちが自らの言葉でその思いを振り返ります。

企画財政課 ☎ 43-9015



第 1 次世界大戦の追悼記念式典に参加